

※ 今週のアウトルック (6/29~7/3)

先週は、全般的にはギリシャのデフォルトを警戒する動きとなり、幾分米ドル、円買い、ユーロ、豪ドル売りが進みました。

6/28 (日) にユーログループから「ギリシャへの支援延長拒否」の報道があり、ギリシャデフォルトへの懸念がかなり大きくなりました。

今週は週明け早々、ギリシャ報道を受けて東京市場がどのように反応するかがまず注目されます。ユーロはどの程度まで売られてしまうのか、断続的なじり安になってしまうのか、どのあたりがサポートラインとなるのか、様子を探りながらの展開となるかもしれません。

先週ドル円は、123円台を中心とした狭いレンジでの動きとなりました。

今週は、まずギリシャ報道を受けて、東京市場から欧州市場にかけてどのような動きとなるのかが注目されます。ユーロ売りの受け皿が米ドルとなるのか、円、スイスフランとなるのか。またはそれほどユーロ売りは大きくなるのか。このあたりの状況にドル円の動きは左右されそうです。木曜日には雇用統計などを控えています。まずはユーロ絡みの動きに注目したいところです。

ドル円の予想レンジは121.5円から125円です。

ユーロは、昨日のユーログループからの「ギリシャ支援延長拒否」の報道を受けて、まず東京市場から欧州市場にかけての動きが注目されそうです。

先週まで、ユーロ売りが3月はじめまでのように大きく進まなかった理由が、最終的には合意するという楽観視からのものだったのか、今回はギリシャだけの話で、ポルトガルやスペインに波及する可能性は少ないという、ユーロ圏全体の状況を考えての上だったのかが、ある程度明らかになるように思います。

ユーロ円の予想レンジは130円から140円です。

ポンド円は、196円付近のレジスタンスに上昇を阻まれています。

今週は、ユーロの状況次第となりそうですが、ある程度落ち着きを取り戻した後に、早期の200円トライがあるのか、リスクテイクセンチメントに左右されそうです。

ポンド円の予想レンジは191円から201円です。

今週は、ギリシャデフォルト後を想定した動きとなりそうですが、デフォルトを回避するような要人発言には特に神経質に反応しそうです。突発的な動きに神経を尖らせながら、チャートを見つめることとなる可能性が高そうです。

免責事項

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。

